

追悼 磯田良一さん



長い間南十字星会にご尽力いただき有難うございました。

梶谷 昌博 (1956卒)

磯田さんのご逝去に接し、心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

磯田さんは2020年の初め、歩行事故により足骨折入院され、以前からの持病の糖尿病と重なって長期入院し治療されていましたが、体調が戻らないまま2021年3月に亡くなりました。

磯田さんは、1955年大阪外国語大学を卒業し、化学品の商事会社に就職した後、1965年に東京で化学薬品商社（磯田商事）を設立されました。その後、同社は順調に経営され2015年には設立50周年を祝っています。磯田社長の起業家精神と共に長年に亘るお嬢さんとの経営努力に敬意を表します。

磯田商事の設立約10年後の1970年代後半より約30年間、社長業に勤しむと共に「南十字星会」（大阪外大インドネシア語学科同窓会）東京支部長（1977~1985）、「咲耶会」（大阪外大同窓会）東京支部長（1985~2000）、同本部会長（2000~2006）を

歴任され、同会の運営と発展に大いに寄与貢献されました。「咲耶会」東京支部長時代には、会員の交流並びに東京外国語大学同窓会との親睦・交流・人脈造りに努力されました。就中、同窓生や著名な知識人による月例講演会の継続開催は、折節の貴重な情報提供の場となっていて、現在も好評で継続されています。

私的に感心していることに、磯田さんが同窓会関係者全ての名前や経歴を正確に覚えておられたことです。同窓会活動にこれ程ご熱心な方は後にも先にも磯田さんしかいないと思っています。

東京支部には、磯田さん以前にも積極的に参加されたお方が多く居られました。例えば、武居芳郎さん（1931年卒）、藪真鉄さん（1934年卒）、和泉弘さん（1939年卒）、東郷芳温さん（1944年卒）、板坂勇夫さん（1947年卒）、大久保隆平さん（1953年卒）、和田正昭さん（1955年卒）、増井正さん（2年修了1956年同期）等々の面々で懐かしく思い出します。

東京支部は従来から、毎年1回、懇親会のみを開いていて残念ながら大阪にある本部等とは、会報以外の交流や連携がなく相互の面識も殆どなかったのが、2020年に大角さん（1977年卒）のご尽力で出来たGroup Mailのお蔭で、本部・東京支部等間の意思疎遠がいくらか解消されて来たのはうれしい限りです。



以前、磯田さんが私に「入試に失敗したが本当は京都大学に行きたかった」と云われたことがありました。これは、磯田さんの一期校・京大への受験失敗の無念さ、当時の就職難、超一流大学でないと偉くはなれないと云う学歴・学閥問題への葛藤があったのだと思います。戦前・戦中のマレー・インドネシア語学科は人気があり入試難関校で

あったのが、磯田さんが卒業した1955年はインドネシア語学科への求人は無く、深刻な就職難だったようです。同期の岸上宗剛さんや加藤稔さん等が就職留年されたほどの状況でした。

このような状況も僅か一年で可成り好転し、翌年からは大手商社からの求人も始まりました。それでもインドネシア関係企業への就職は僅か3名に止まっています。幸いにも翌々1957年からは神武景気が始まり、多くの大手商社を含む有名企業が積極的に人材採用を図り、インドネシア語学科も春を迎えました。

また、磯田さんは当時から同窓生の皆に、外部関係者にも「私は大阪外大の陸上競技部を卒業した」と言っておられました。陸上競技部で中距離のSpecialistだったそうですが、故坂井正弘さん（E1956年卒2020年没）によるとそんなには早くはなかったようです。

それでも、部内では練習を通じ仲間との絆を大切にされ、卒業後も親交を深められていました。今でも同窓会内の陸上競技部OBの結束力や影響力が強力なのはきっと磯田さんのお蔭でしょう。又、一方、磯田さんはインドネシア業務に関われなかったこともあり、インドネシアについて話したくなかったようです。尤も、当時は今とは異なり卒業しても専攻語を生かすことが難しく、多くは専門外の会社に就職しています。専攻語を生かせずに就職した卒業生も違った業種で大活躍されています。それはリベラル・アーツの一つとしての外国語の勉強が脳細胞を刺激し地頭の鍛錬に役立ち、入社後の自主研鑽に努力されことに依るのでしょう。

一例ですが、大阪外大で蒙古語やインド語を学んだ司馬遼太郎氏や陳舜臣氏が著名な作家となっています。学校教育と個人的才能とは別物であり、私は磯田さんがそのようなことを気にする必要はなかったと思っています。ただ、一方で、磯田さんの存在が大きかったが故に、陸上競技部に関係が無かった卒業生が同窓会へ積極的に参画しな

かった原因になっていたとしたら、少し残念ではあります。



磯田さんと言えば、同時に浜辺昌洋さんを思い出します。浜辺さんは1957年に卒業し、松下電工で大活躍される一方、同窓会にも熱心に参画されていました。スマートで、dandy、しかも温厚・公平なお方でした。それ故に磯田さんの次の会長にと期待されていましたが、定年退職後間もなく癌で急逝されたのは誠に残念です。浜辺さんは磯田さんとは特に親しく、同窓会でもよく磯田さんをサポートされておられた。時には磯田さんに対して内藤基金の使い方等を諫言されていました。その浜辺さんが元気な時に、故岡田清美さん（1956年卒、磯田さん時代の咲耶会東京支部会計担当）と一緒に以下のようなことを言っておられました。

「磯田さんは、我々に同窓会会長も社長も出来るだけ長くやりたい」と。また「磯田さんは、人との出会いを大切にされ、世代を超えて親交を深められ、そして人の輪を大きく広げられた。磯田さんは、人に誘われたり、頼まれると断ることが出来ない人で、特に東京外大・大阪外大及び両大学の同窓会と陸上競技部の全行事に熱心に参加された。これ程まで出来るのは磯田さんだけであると、私だけでなく皆がそう思っているし、本当に頭が下がる思いがする」と。

合掌



【Terjemahan Ringkasan】

Teks Duka kepada Pak Isoda

Saya turut berduka cita sedalam- dalamnya atas meninggalnya Pak Isoda dan berdoa kebahagiaan di dunia baka.

Pak Isoda dirawat dirumah sakit karena tulang kakinya patah sebab kecelakaan saat perjalanan pada awal tahun 2020. Karena sakitnya tumpang tindih dengan diabetes melitus, walaupun rawat inap sudah cukup lama, dia meninggal dunia awal Mei 2021 tanpa memperbaiki kodisinya.

Pak Isoda lulus Osaka University of Foreign Studies (OUFS) pada 1955. Dan dia mendapat pekerjaan di perusahaan perdagangan barang kimia. Sekitar 10 tahun kemudian, pada 1965 dia mendirikan "Isoda Shouji", perusahaan grosir bahan kimia seperti aditif makanan. Sejak pendirian perusahaan terus menerus dijalankan dengan baik dan merayakan ulang tahun ke-50 sekitar 5 tahun yang lalu. Semangat pendirian perusahaan dengan sendirinya (Kewiraswataan) pada waktu itu dan prestasi kelola bersama dengan putrinya sangat dihargai dan dihormati.

Selama sekitar 30 tahun sedari 1975, waktu sesudah 10 tahun sedari ketika perusahaan didi-

rikan, dia menjabat sebagai presiden perusahaan bersama dengan ketua Ikatan Alumni Jurusan Bahasa Indonesia OUFS "Minamijujisei-kai" (IA Bintang Pari) Tokyo 【1977~1985】, kemudian, ketua Cabang Tokyo Ikatan Alumni OUFS, "Sakuya-kai" 【1985~2000】 dan ketua pusat "Sakuya-Kai" 【2000~2006】. Pak isoda berkontribusi pada operasi dan pengembangan Ikatan Alumni kami. Di Tokyo, dia berusaha untuk membangun koneksi pribadi, pertukaran persahabatan alumni OUFS bersama dengan alumni Tokyo University of Foreign Studies (TUFS), dll.. Di antara capaian2 tersebut diatas, penyelenggaraan kuliah bulanan oleh alumninya dan intelektual terkenal yang berkesinambungan merupakan wadah untuk memberikan informasi terkini yang berharga, dan memdapat reputasi baik dan terus berlanjut hingga saat ini.

Apa yang saya kagumi secara pribadi Pak Isoga mengingat nama dan karier seseorang yang bersangkutan dengan baik dan akurat. Saya kira hanya beliau satu-satunya orang yang begitu antusias dengan kegiatan ikatan alumni kami.

Sekian dan turut berduka.
(M.Masutani, alumni 1956)

投稿・寄稿のお願い

「南十字星」会報誌に掲載する原稿を随時募集しています。インドネシアに関すること、日頃思っていること、旅先での経験、人物の思い出等、内容は自由です。

また、会報誌掲載とは別に、南十字星会会員の人物アーカイブズの作成(右記要領)を企画しました。会員の情報を、デジタル情報(PDF書類)にして事務局で卒業年度ごとにまとめて保管しておきます。会員から希望があった場合に、情報を開示します。同窓会開催、会員間交流に役立ててもらうこと、また、インドネシア語学科で学んだ仲間が存在した証を残すことが目的です。

各卒年毎に担当者がまとめて頂いても結構です。コロナ禍やウクライナ問題など実に様々な出来事が起きている2022年現在の情報を募集します。

人物アーカイブズ企画

- ① 投稿原稿形式 (PDFワード版)
- ② 内容例 ・卒業高校 ・学生時代の思い出
・所属クラブ活動
・卒業後のキャリア ・趣味等
- ③ 近影・思い出写真 (メールに添付下さい)
- ④ メール送信先 & お問い合わせ先

南十字星会・事務局 (小原)

mjsk2020@nike.eonet.ne.jp
ohr1210@nike.eonet.ne.jp

- ⑤ 本データは会員間でのみの利用に限定しデジタルで保管し、希望者に開示。

以上



協賛者

協賛金をお送りいただき有難うございました。
ご協力に感謝申し上げます。(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1944 東郷 芳温	1962 石川 恵二	1970 天野 正昭	1984 宮崎 晃
1944 濱田 広一	1962 松木 優	1971 野崎 淳一	1984 橋本 美佐子
1948 山口 一史	1963 島貫 全	1971 森 和夫	1986 墨 史朗
1955 石井 義人	1963 堀田 実	1972 塩見 澄	1987 太田 幸大
1955 梶谷 敬二	1963 大田中 実	1973 今村 政幸	1988 内田 雅之
1956 島崎 忠彦	1963 前田 比佐夫	1973 小田 敏治	1991 鴨川 紀代
1956 梶谷 昌博	1963 小原 一浩	1973 米田 洋一	1994 竹前 望美
1957 西 俊彦	1963 瀧口 昇治	1975 丹羽 慎吾	2006 坂井 美帆
1957 田端 てい二	1964 小西 新平	1976 廣澤 義幸	
1958 寺嶋 正直	1964 澤井 佳一	1977 大角 幸彦	※以上敬称略。数字は卒業年。 (間違いがあればご容赦)
1958 河上 宗弘	1964 野村 幹雄	1977 林内 典子	【お願い】 振込票に卒業年を ご記入頂ければ助かります。
1958 磯浦 美恵子	1964 品川 辰弥	1978 中村 由実	
1959 丹羽 宏造	1965 宮崎 衛夫	1978 藤井 眞澄	
1959 小黒 一	1965 横田 義明	1979 竹田 啓治	
1960 林 喜久雄	1965 永田 悠	1979 大野 泉	
1960 西田 達雄	1965 有井 晟	1979 安藤 律男	
1960 喜多山 寛爾	1966 鈴木 安夫	1980 澤井 千尋	
1960 滝本 佳一	1966 扇谷 竹美	1980 片山 信英	
1960 後藤 正隆	1967 佐々木 信子	1981 道幸 静児	
1961 松尾 大	1967 和田 肇	1982 北野 忍	
1961 田中 政義	1968 広瀬 加代子	1983 高須 加奈子	
1961 岩井 俊之	1969 本田 正伸	1983 松尾 和城	
1961 植田 正博	1969 西川 欣二	1984 砂取 敬介	

～協賛のお願い～

- ・郵便の振込取扱票に、郵便番号、卒業年、電話番号、メールアドレスをお書き添え下さい。
- ・南十字星会の運営は「協賛金」によって賄っています。一口2,000円以上です。

南十字星会 幹事会名簿 令和元年11月25日～

氏名	卒業	担当
小原 一浩	63年	会長
石丸 誠一	75年	副会長
辻本 雅洋	75年	副会長・東京支部長
沖中 弘和	95年	事務局
高田 芳博	07年	HP管理者
宮崎 衛夫	65年	幹事
大角 幸彦	77年	幹事
坂口 広之	88年	幹事・インドネシア支部長
片山 秀樹	90年	幹事
戸田 理恵子	05年	幹事
西野 めぐみ	05年	幹事
増田 崇行	07年	幹事
松本 晋	08年	幹事
原 真由子	教員	幹事

会計報告書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	230,391	事務用品購入費	32,668
協賛金 (R3/4/1～/R4/3/31)	339,990	会報第27号作成費	107,530
		会報送料 (郵送料&クロネコDM代)	125,037
		合計	265,235
		次期繰越金	305,146
合計	¥570,381	合計	¥570,381

令和4年 3月31日 南十字星会会長 小原 一浩

● 咲耶会東京支部からメールマガジンが配信されています。外大卒業生にとって興味深い情報が充実しており、読み応えがありますので、ぜひご登録をおすすめします。配信希望者は、メールで①氏名②メールアドレス③語科④卒年(西暦)⑤住所(都道府県&市区町村名のみ)をtaru2742@yahoo.co.jp(咲耶会東京支部 樽井一仁氏)までお送りください。

編集後記

★3年間にも及んでいるコロナ禍、2月24日、国連(UN)常任理事国の一つであるロシアが、核戦争への可能性をちらつかせ乍ら、隣国ウクライナへ侵攻したことなど、心が痛む出来事に事欠かない2022年です。このかけがえのない地球にあって、万物の霊長たる人類は少しも過去を学んでいないようである。一人の独裁者の行動で、折角築いた家々が、都市が、文化が無残に破壊されている映像を見るのは辛い。地球より重い人の命なのに、理不尽にもこの地球から抹殺されています。一刻も早く戦いのない平和な地球の取り戻したいものです。それにしても、全体主義国家の独裁者は本当に怖い存在です。

★相変わらず多いコロナ感染者数ですが、国際間の交流状態も元に戻りつつあります。この間、企業活動ではテレワークが、学校関係ではテレストデイが進み、世の中の変革がどんどん進行しました。

★同窓生の若手有志が5月に開催した「松野先生を囲む会」(Zoom)に参加しました。31名の同窓生の顔が見える会議は素晴らしく、滞在中のインドネシア、豪州、マレーシア等々の国か

らの参加者もあり、楽しい交流でした。バンドン在住の坂口支部長とも初めて顔を見ながら会話できました。最近では多くの国際会議もインターネットで開催していて、偶に対面での会議でこと足りるようです。現にウクライナの大統領は世界各国の議会に出席しています。Zoomは素晴らしいと思っていたら、若手はスマホを活用していたようです。

★世は情報時代、会報を編集して、二人の同窓(榎谷昌博氏・56年卒と丹羽慎吾氏・75年卒)の情報発信力に驚いています。この第28号の発行にも大変お世話になりました。

★外国語学部に対する同窓生の関心が高いことに鑑み、大学のランキングを参考資料として取り上げました。総合大学の一部となった学部の現状は分りにくいですが、入試難関10大学(旧7帝大と東工、一橋、神大)の一角として発展して欲しいと願っています。(編集人)

2022年(令和4年)8月発行
南十字星会(大阪大学外国語学部インドネシア語専攻同窓会)
事務局 〒589-0007 大阪狭山市池尻中1-28-1 小原方
電話:072-366-1113
E-mail:mjsk2020@nike.eonet.ne.jp
編集協力 吉崎企画